

令和7年度 学校自己評価システムシート（滑川町立滑川中学校）

目指す学校像	笑顔と幸せがあふれる滑川中学校
--------	-----------------

重点目標	1,基礎的な知識・技能の定着を図り生徒一人一人が力を付ける学習指導の充実 2,全教育活動における生徒理解を基盤とした組織的・系統的・積極的な生徒指導の推進 3,生徒・教職員の動きが地域社会に信頼感を生み出し、地域とともにある学校づくりの推進 4,自分を見つめた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校運営協議会にて、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	①定期的な授業参観・積極的な研究授業の実施、授業力向上に関する研修への参加については継続して行っていく。その際、他教科からも授業改善のヒントを見つけるようにしていく。 ②ICTを積極的に活用しているが、より効果的な活用を推進するためには、年間指導計画に位置付けるなど意図的・計画的に活用していく必要がある。授業参観や職員研修を定期的に開催し、授業内で効果的に使用できるようにする。また、職員の作成した様々なコンテンツを集約・共有し、活用できるようにする。 ③家庭学習の取組が十分ではなく、保護者の好意的な評価も高くない。生徒の実態に応じた課題が出せるよう、教科会等で研究を継続していく。 ④話し合い活動を実施する上で、「グループ学習」の効果が高いと考えられる。効果的な指導方法や学習形態についても検討していく。	○学力の向上 ・基礎的な知識・技能の定着 ・学習指導力の向上	①ー1 担当教科を中心に、学期に1回以上、相互に授業見学を行う。授業公開する場合には積極的に発信する。 ②ー1 Teamsやパワーポイント、百問繚乱などのオフィスソフトを中心に、教員個人のICTスキルを向上させる。 ②ー2 ICTを普段から活用している社会科などの授業を見学する。 ③ー1 生徒の実態に適した系統性のある宿題を出す。 ③ー2 国語、数学、英語を中心に計画的な家庭学習を提示する。 ④ー1 普段から、少人数での話し合い活動を意識した授業を行い学校全体で取り組む。①の公開授業と連携する。	①学校評価に係る教員対象アンケートで、授業見学について「当てはまる」が80%以上であるか。 ②学校評価に係る教員対象アンケートで、ICT活用について「当てはまる」が80%以上であるか。 ③学校評価の宿題の内容の工夫について「当てはまる」が80%以上であるか。 ④学校評価に係る生徒・教員対象アンケートで、話し合い活動について「当てはまる」が70%以上であるか。	①昨年度より、授業見学の頻度は増えたがアンケート結果では目標の数値には達しなかった。 ②各教科、授業の内容に応じてパワーポイントやタブレットを活用している。採点時には、全教科で百問繚乱(採点支援システム)を活用した。しかし、教員のアンケートでは80%の数値に達しなかった。 ③国語、数学、英語において系統性のある宿題を生徒に提示したが、工夫という視点においては、生徒・教員の回答の「当てはまる」が25%だった。 ④生徒・教員の両方ともに「当てはまる」が90%以上であった。	B ①公開授業の頻度を増やし、授業見学への参加を促す。 ②ICT活用に特化した公開授業を各教科学期に1度実施する。 ③生徒が意欲的に宿題に取り組めるような工夫を話し合い、生徒に分かりやすく提示していく。 ④数値目標を達成しているので、現在実施している取組を維持する。また、話し合い活動の質の向上に向けた取組を実践する。
2	①不登校になる要因が多様化・複雑化しており、様々なケースに対応できるスキルが必要とされている。生徒指導・教育相談部を中心として研修を実施していくとともに、SC、SSW、相談室、学習支援室「つぼみ」と連携し、全職員で生徒とその家庭を支援していく体制づくりが必須である。 ②学級経営を軸に生徒一人一人の達成感や自己有用感、自己肯定感を高めるため、教員の指導力向上を目指した校内研修を実施していく。 ③生徒理解、適切な初期対応、根気強い指導や支援を組織的に推進するために、教職員間の共通認識を醸成と教育相談的手法を習得するための研修を計画的に実施する。	○教職員全体の生徒指導・教育相談に関する知識・理論、手法のスキル向上 ○組織的な生徒指導・教育相談を行う為の体制の構築	①様々なケースに対応できる為の生徒指導・教育相談に関する研修を実施する。 ②教職員間の共通認識、組織的生徒指導・教育相談を実施する為の体制を作る。 ③生徒指導・教育相談実施後のフィードバックの徹底。ベテラン・中堅教員から若手教員に向けてのスキル向上に繋がる取組を実施する。	①生徒指導・教育相談における報告・連絡・相談の徹底や職員間の情報共有等、組織的な対応についてのアンケート評価「当てはまる」が90%以上であるか。 ②生徒・保護者アンケート「困りごとや不安があるときに、学校は相談に乗ってくれるか」に関してのアンケート評価「当てはまる・だいたい当てはまる」が80%以上であるか。 ③職員研修の充実と教育相談的手法の習得に関してのアンケート評価「当てはまる」が90%以上であるか。	①教職員の生徒指導・教育相談における報告・連絡・相談の徹底や、職員間の情報共有等、組織的な対応についてのアンケートで「当てはまる・だいたい当てはまる」の好意的な回答は100%であった。日頃から職員間で報・連・相に関しての声をかけたことが共通理解・共通行動に繋がったと考える。 ②「困りごとや不安があるときに、学校は相談に乗ってくれるか」に関してのアンケート評価「当てはまる・だいたい当てはまる」は生徒は80%を越えたが、保護者は75%程度であった。 ③職員研修の充実と教育相談的手法の習得に関してのアンケート評価「当てはまる」は40%程度であったが、「だいたい当てはまる」の含めると90%を超えた。	B ①教職員間の生徒指導・教育相談に関する共通認識をより高めたり、報告・連絡・相談の流れがよりスムーズかつ正確にできたりするようにするために、ツールを使用しシステム化をする。 ②教職員の生徒指導・教育相談の指導力を向上させるために、2人1組で指導を行うようにし、指導後には振り返りやフィードバックを実施する。 ③校内研修等、決められた研修以外でも朝の打合せの時間でミニ研修等を実施する。
3	①コミュニティースクールとして「学校を核とした地域づくり」を推進する。 ②地域の祭りや町の体育的行事、十代からのメッセージといった多くの地域に出る活動を行っている。「部活動の一環として参加する」のではなく、「地域協働活動として、部活動のメンバーで参加する」等の意識付けに関する工夫を行う。 ③ホームページや学校だよりだけでなく、生徒や教職員が地域の活動に参加した際に、学校や生徒の活動の様子を地域に伝えていく。 ④地域の教育機関や人材を積極的に活用することにより地域学校協働活動の充実を図り、地域を愛する人材を育成につなげる。	○生徒・教職員の地域学校協働活動への積極参加を通した地域の活性化	①地域人材を活用した教育活動の実践と地域教育力の向上を行う。 ②教育活動を地域への積極的に発信する。(広報活動の充実) ③教育活動の理解に向け、学校行事等を積極的に地域へ公開する。 ④学校を中心とした地域連携の場の提案とそれらに対し積極的に参加する。	①地域人材の活用ができたか。 ②地域協働活動への積極的な関わりが増したか。 ③学校評価に係る保護者対象アンケートで、教育活動の積極的発信について「当てはまる・だいたい当てはまる」が80%以上である。 ④地域連携を活用した学校中心の企画と参加ができたか。	①、④学校花壇、介助体験、赤ちゃんふれあい体験、社会体験チャレンジ等を通して地域との関わりを深めながら、教育活動を進めることができた。保護者も制服リユース、駐車場案内、除草活動など多くの方が参加し、地域連携を深めた。 ②滑川町まつりや滑川駅伝等の町内行事に数多くの生徒が参加しているが、アンケート結果は目標に届かなかった。また、保護者の多くが、「部活で強制的に参加している」と感じているようである。 ③アンケートの結果から学校便りでの情報共有は有効で保護者に学校の様子を伝えることができていた。	A ①、④今後も地域との連携・地域人材の活用を効果的に行い、学校の教育活動や行事を進めていく。 ②生徒アンケートにおいて、実態と結果が乖離しているようである。質問項目に具体例を載せることで数値が変わる可能性が高いので、次年度は文言を検討・修正する。 ③学校だよりを使った情報提供が有効であるとアンケート結果から分かった。さらなる情報発信に向けて、学校便り以外の情報提供も行うと良い。その一つとして、町内で発行している広報誌の活用を検討する。
4	①生徒・保護者の認識として、キャリア教育(進路)=高校入試になっている可能性がある。来年度以降「自分を知る・職業体験」などもキャリア教育の一環であることを職員自身が改めて意識し、指導していく必要がある。 ②夏季休業中の三者面談にて、入試の情報提供を行ったが、希望制であるため「分からない」と回答した保護者の数が多かった。今年度は、夏季休業中の三者面談を全校生徒が実施する。さらに学年だよりや保護者会等で意図的・計画的に発信していく。 ③3年間を見通した年間計画を作成し、生徒一人一人が将来を見据えた進路選択・進路決定ができるよう指導していく。 ④キャリア・パスポートを活用して、面談等でキャリア・カウンセリングを充実させる。	○自ら進路選択できる力を育むための系統的なキャリア教育の推進	①1年生では、「自分を知ること。職業体験」を通して将来の見通しをもたせるよう指導する。2年生では、高校と職業のつながりについて学習させ、理解を深める指導をする。3年生では、進路実現に向けて生徒及び保護者と面談をこまめに実施していく。 ②今年度より、夏季休業中に全校三者面談を実施し、情報を積極的に発信していく。また、11月の三者面談(1,2年生希望制)においても同様に行う。 ③学活や総合的な学習の時間を精査し、3年間を見通した計画を策定する。	①学校評価アンケートで、キャリア教育(進路)の各項目に「当てはまる・だいたい当てはまる」が80%以上である。 ②年間2回の全校三者面談で有効かつタイムリーな情報発信が行えたか。 ③3年間を見通した進路学習計画ができたか。	①学校評価アンケートの結果は、概ね70%台であった。毎年の課題であるが、学校で行っている活動(学習内容)が保護者に伝わりにくい傾向にある。 ②年間2回の全校三者面談を有効活用し、各学年で情報発信ができた。 ③今年度は、各学年で「行ったことリスト」を作成した。	B ①学校で行っている学習活動が、キャリア教育とどのように関係しているのか教師側の指導方法(表現方法)について工夫する。 ②家庭での生徒と保護者のコミュニケーションが少ないことがアンケート結果(18)の項目(学校でのキャリア学習をきっかけにして、進路について家庭で話し合う機会が増えた)から想定される。改善策として、事前に三者面談で相談したい(話題にしたい)内容を生徒に伝え、自宅で保護者とじっくり相談をしてから三者面談に出席するようアプローチをかける。 ③今年度作成した「行ったことリスト」をさらに発展させるために、3年間を系統立て、さらに深みのある計画を策定する。

学校関係者評価
実施日 令和8年2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・ICTの活用は、授業において大切なスキルである。授業効果を最大限高める使い方を今後も意識していけるとよい。 ・授業等で使用するパワーポイント等は、多くの教員で共有し授業力向上に繋げていけるとよい。 ・生徒には、デジタルな力だけでなく、アナログな力もしっかりつけてほしい。ペンを使って文章を書く力、自分の口で考えを伝える力などを伸ばしていくことが将来にも役立つはずである。 ・AI技術の進化が世間を賑わせているが、まずは自分自身で物事を考える力をしっかりと身に付けさせることが大切である。
・生徒の不登校の理由は複合的なので、生徒、保護者、関係機関との連携を行い、絶えず生徒理解に努めていってほしい。 ・教職員の生徒指導に必要なスキルにまだまだ差があるので、今後も継続して研修等を行い、指導力の向上に繋げていけるとよい。 ・生徒、保護者の困りごとや不安に対して、学校は一人一人に寄り添った丁寧な対応ができている。引き続き相談体制の充実にも努めてほしい。
・情報発信の一つとして、ホームページが考えられるが、過去の情報が残っていたり、更新がされていないなど、今後の活用方法を工夫することで、地域への情報発信に繋がる。 ・吹奏楽部が滑川まつりに参加しており、滑川町を大いに盛り上げてくれた。町民スポーツ祭・滑川町駅伝にも多くの部活動が参加し、地域を活性化している。 ・より地域を愛する生徒を育てるためにも、地域の歴史を知ることも大切である。 ・すぐえるが、とても効果的に機能している。 ・数学検定を滑川総合高等学校と連携して実施している。継続していけるとよい。
・社会体験チャレンジ、上級学校と職業との繋がり、三者面談などの様々なキャリア教育を実施しているが、アンケート結果ではネガティブな意見が多い。学校から、家庭内でも話題になるような情報発信を積極的に行うことが重要である。 ・社会体験チャレンジでは、たくさんの事業所に協力していただき、生徒も主体的に活動できていたのがとてもよかった。 ・キャリアパスポートを有効に使い、キャリア教育の充実が図れるとよい。